

■ 人権朝礼【校長講話】



- ①暴力 ②仲間はずれ
- ③虐待 ④パワハラ
- ⑤SNS ⑥外国人 ⑦高齢者 ⑧障害を有する人



人権朝礼で、子供達に関係する主な人権課題について話しました。一人一人が日常生活の中で人権感覚を高めて行くことが大切です。大人も子供も知らないうちに他人の人権を傷つけていると認識しなければならぬと考えます。

■ 相手の欠点を包み込む心で

相手の欠点を包み込む心で

人は一人で生きることにはできません。「他人には一切迷惑をかけない」という生き方は無理な話です。ですから、迷惑をかける以上に、他人に役立とうとする気持ちが大切です。「お互い迷惑をかけ合う間柄」であればこそ、相手を許し、相手の欠点を包み込むような心を持つ必要があるのではないのでしょうか。 (ニューモラル今月の言葉) より



■ 人権週間 あいさつ運動



12月は、「いじめ防止強化月間」です。5・6年生を中心に「あいさつ運動」を実施しました。あいさつには、「相手の心や身体を心配していますよ」の意味があります。ひよっとすると言葉以上に相手の気持ちや身体の具合を察することができるのではないでしょうか。ですから、あいさつの大切さを呼びかけるあいさつ運動が大事です。以前、横断歩道を渡りきった西中生が、止まってくれた車の双方に深々とお辞儀をしている場面に出会いました。その日は一日中気分がよかったです。

■ あいさつマスターシール



計画委員の子供達は、「相手の目を見て、笑顔で、大きな声であいさつする子」に「あいさつマスターシール」を配る活動をしてくれました。人権週間の毎朝、児童玄関で登校してくる子供達とあいさつをかわし、目を見て、笑顔で、大きな声であいさつをする児童にシールを渡していました。「質の高いあいさつ」ができるようにするためにはどうしたらいいのか、計画委員さん達が一生懸命考えて、シールをつくって啓発してくれたのです。実は計画委員さんたちのあいさつが一番でした。

■ 世界人権宣言

世界人権宣言は、すべての人間が生まれながらに基本的人権を持っているということを、初めて公式に認めた宣言です。

1948年12月10日、フランス・パリで開かれた第3回の国際連合総会で、

「あらゆる人と国が達成しなければならない共通の基準」として採択されました。

この宣言の中には、「自由権」と「社会権」がともうたわれています。「自由権」として、身体の自由、拷問・奴隷の禁止、思想や表現の自由、参政権など、「社会権」として、教育を受ける権利や労働者が団結する権利、人間らしい生活をする権利などがふくまれています。この内容は、アムネスティ日本の Web ページを参考にしています。

<https://www.amnesty.or.jp/>



人権/イラスト 第2条：差別はいやだ

■ 世界人権宣言の今

2018年12月10日、世界人権宣言は採択 70周年を迎えました。多くの言語に翻訳され世界中の人びとに読まれているこの宣言は、70年を経た今、本当に生かされているでしょうか。



人権/イラスト 第30条：権利を奪う権利はない

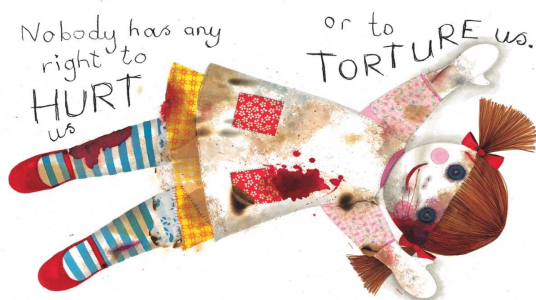
紛争や暴力、迫害などにより、住む場所を追われた難民の数は2017年末の時点で6,850万人を越え、5年連続で増え続けています。また、人権条約で禁止されているはずの拷問、奴隷制、人種差別、女性差別、無差別の虐殺などが世界中で続いています。

私たちが住む「先進国」といわれる国ぐにも例外ではありません。たとえば、2015年にも、米国を含む112カ国で、政府による拷問や虐待が行われているのです。

■ 世界人権宣言を読んでみよう



第3条 安心して暮らす



第5条 拷問はやめろ

日本語訳：谷川俊太郎「わかりやすい 世界人権宣言」より

<https://www.amnesty.or.jp/lp/udhr/>
世界人権宣言全文を分かりやすく谷川俊太郎さんが翻訳しました。イラスト付きで絵本のような感じです。この Web サイトはアムネスティ日本が運営しているサイトです。人権のことがとてもよく分かります。谷川俊太郎さんは、「あしながおじさん」「スイミー」などの翻訳や絵本作家として有名です。

■ 吉田小人権集会



各学級の代表者が、「私の人権宣言」を発表しました。全員で、吉田小人権宣言を斉唱した後、計画委員さんが「思いやり算」劇を演じてくれました。



+ (足し算) たすけあう - (引き算) ひきうける



× (かけ算) 声をかける ÷ (わり算) わけあう
「私の人権宣言」は、児童一人一人が考えて短冊に記入しました。プレイルームに掲示しました。

今後は、宣言が実現できるように一人一人が実行するのみです。まずは、「あいさつ」「言葉」から大切にして欲しいと思います。私たち大人も、頑張って子供達のお手本になりたいと思います。